

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
139

【神秘学ポエジー～風遊戯 第278集】 photo ヴァージョン

photopos 3451-3475

《2024.2.19～2024.3.14》

神秘学遊戯団

外から
つくられるかたちは
すぐに自然を
閉じ込めてしまうから

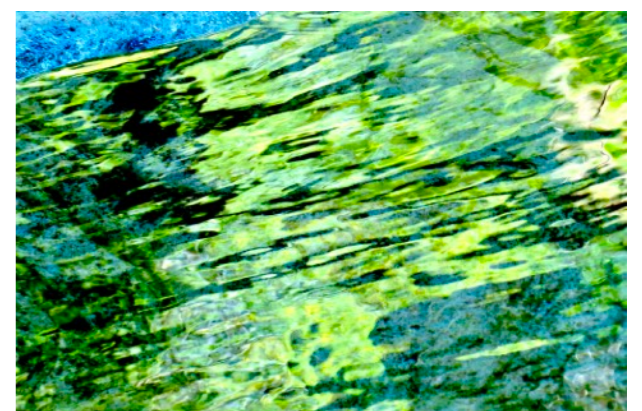
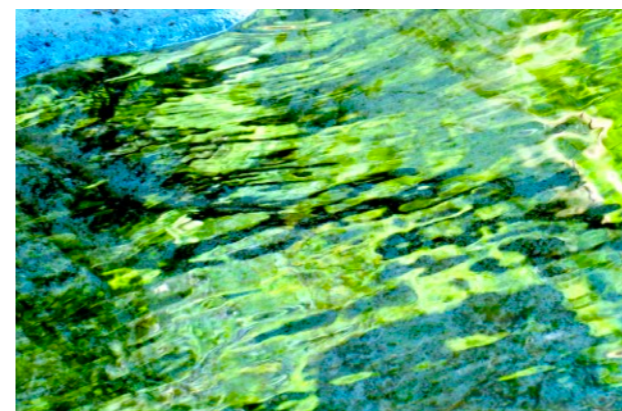
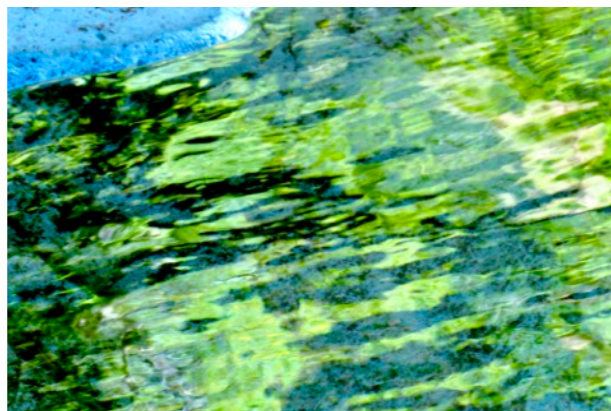
とらわれない
かたちを
内からつくる

外から
与えられることばは
すぐにひとを
縛ってしまうから

とらわれない
ことばを
内からつかう

外から
測られるじかんは
すぐに自由を
奪ってしまうから

とらわれない
じかんを
内からいきる



*愛媛県久万高原町・面河溪にて

ものを
つくることで

ものに
救われる

ものを
使うことで

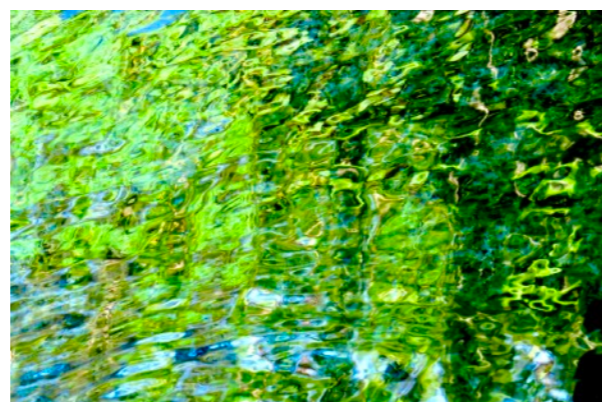
ものと
ともに喜ぶ

ものを
愛でることで

ものの
いのちが甦る

ものに
いのることで

ものは
時を超える



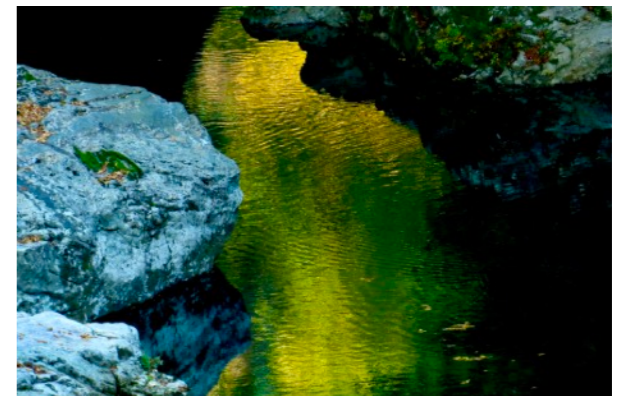
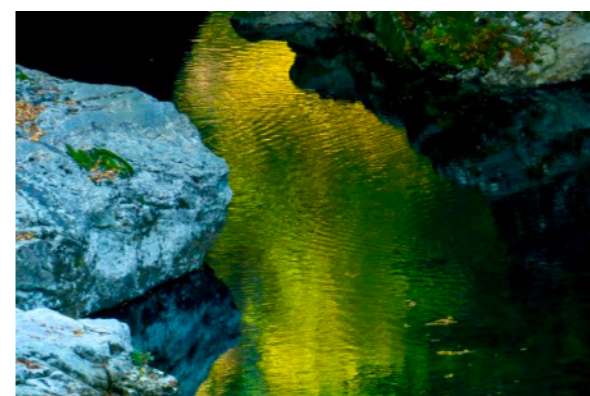
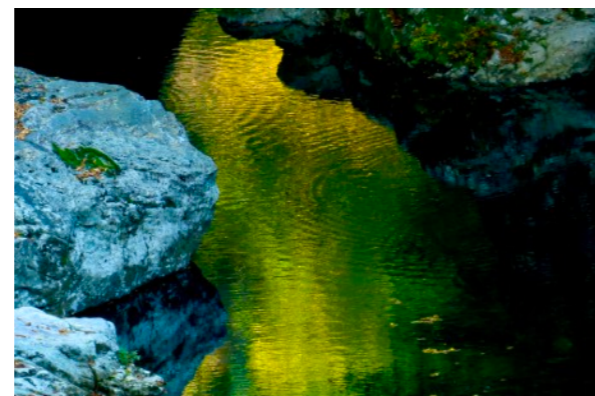
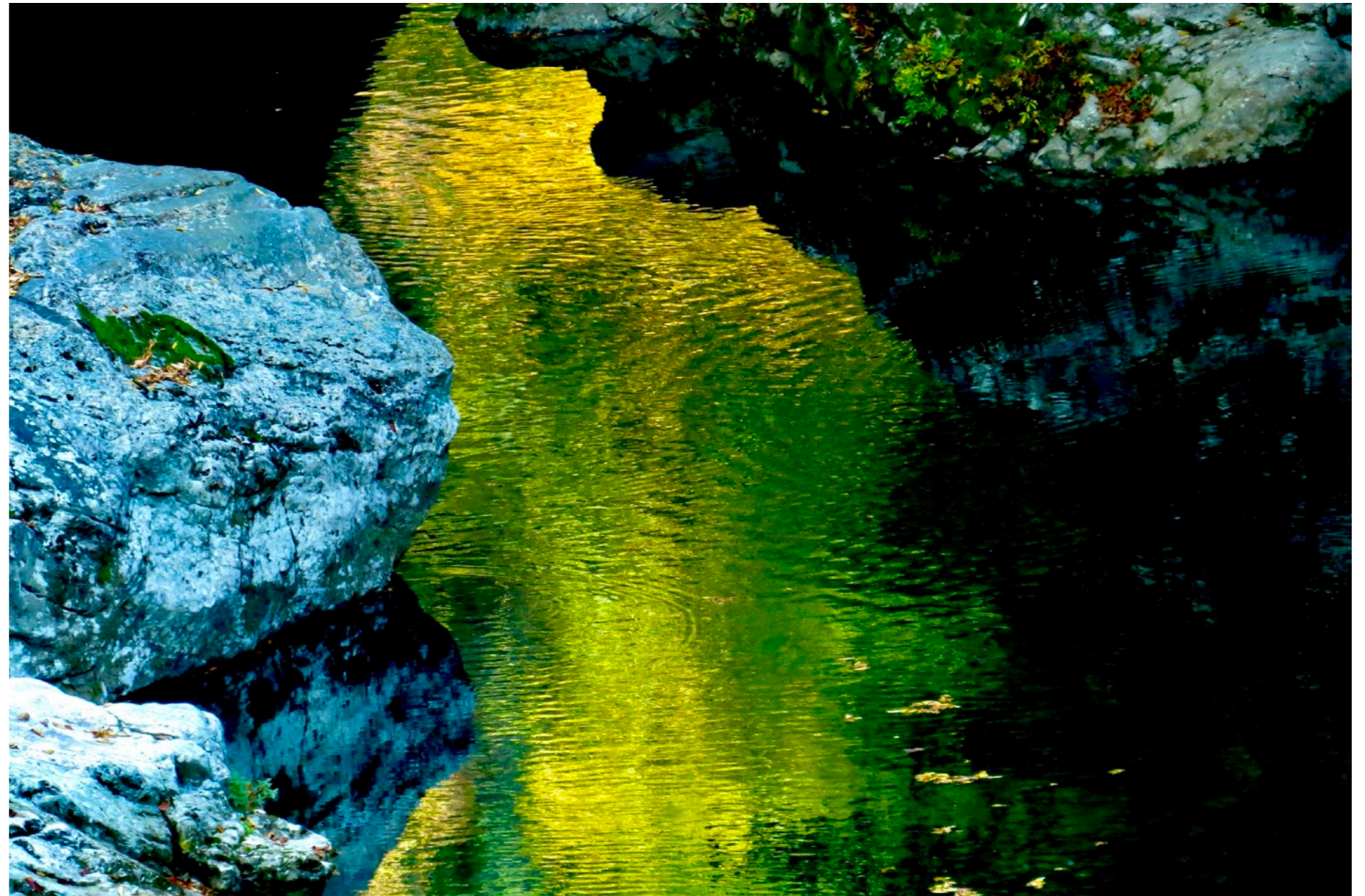
みずからの影に
気づけないでいるとき
ひらかれた知が
訪れることはないだろう

みずからの救われなさに
涙さえ涸れてしまうとき
魂の深みにある愛が
光をもたらすことはないだろう

みずからの正しさに
浮かされたまま我を忘れるとき
内に秘められた真実が
心の湖面に映されることはないだろう

みずからの苦しみに
なすすべなく歩みを止めたとき
苦しみをもたらす源への道が
ひらかれることはないだろう

けれども
そんなときにこそ
天と地を超え
おうおうと呼びかけつづけている
大悲と大智のてのひらに
ささえられているのだ



妬（ねた）み
嫉（そね）み
僻（ひが）み

ひとつ
くらべて
シーソーゲーム

どちらが上か
また下か

シーソーゲームは
終わらない

ハツカネズミの
回転遊び

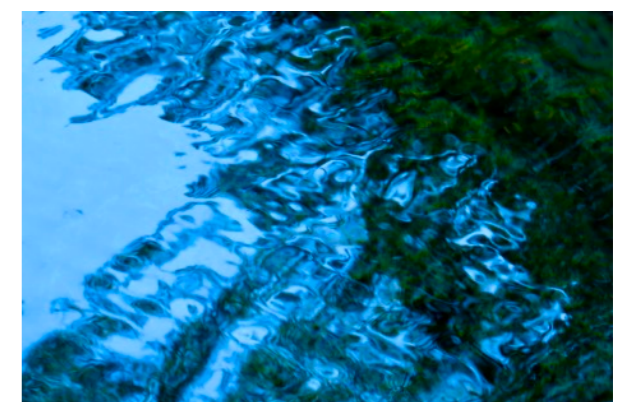
回れど回れど
終わりなく

くるくる狂って
どこまでも

ひとの
こころの
不可思議絵巻

競う相手は
じぶんのなかに

気づいたときに
世界は変わる



☆photopos-3455 2024.2.23

小さな声でしか
届かない言葉があり

囁くような歌でしか
届かない愛があり

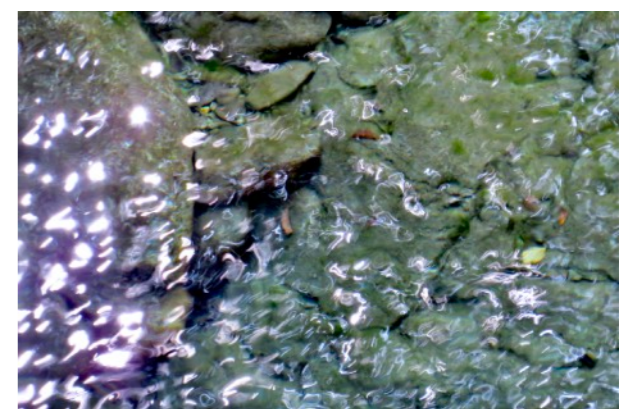
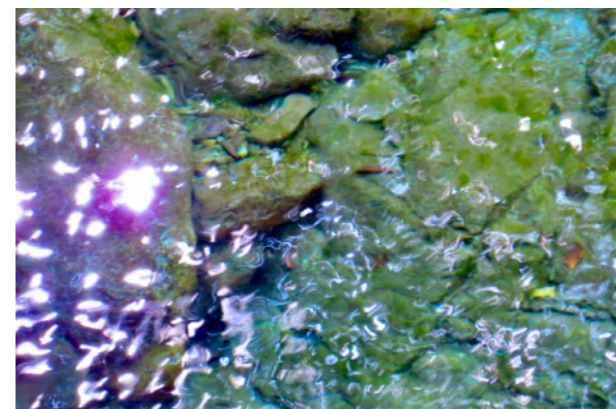
見えない心でしか
届かない祈りがある

そうして

だれでもない私にしか
届かない花があり

どこにもない所にしか
届かない秘密があり

いつでもない時にしか
届かない永遠がある



*愛媛県久万高原町・面河溪にて

測れないものを
測ってしまうひとよ
あなたはなにを
測っているのか
じぶんのすべてさえも
測ろうとしているのか

数にならないものを
数えてしまうひとよ
あなたはなぜ
数えているのか
じぶんのころろさえも
数えようとしているのか

比べられないものを
比べてしまうひとよ
あなたはなにを
比べているのか
じぶんであることさえも
比べようとしているのか



*愛媛県久万高原町・面河溪にて

光は
見せることもできるが
見せることで
見せないこともできる

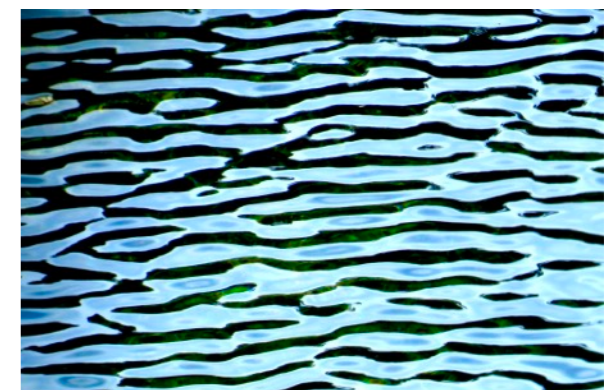
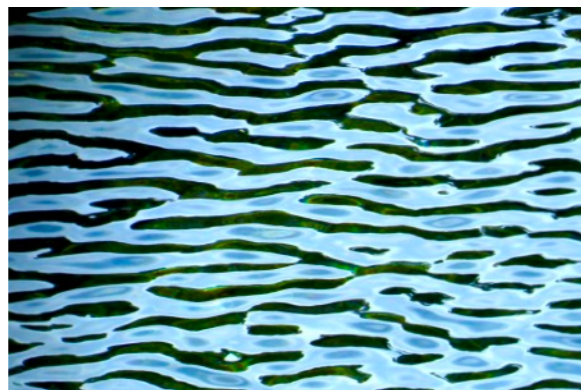
見えていることで
見えないものが
見えなくなるからだ

見るということは
見えていないものをこそ
見ようとするのだということに
光があたりますように

知識は
与えることもできるが
与えることで
与えないこともできる

教えることで
教えられていないことが
隠されてしまうからだ

知るということは
教えられていないことをこそ
知ろうとすることだということを
知ることができますように



息をする

すると
世界は
わたしになり
わたしは
世界になる

見あげる

すると
空は
わたしになり
わたしは
空になる

耳をすます

すると
鳥の歌は
わたしになり
わたしは
鳥の歌になる

園を歩む

すると
花の香は
わたしになり
わたしは
花の香になる

心を放つ

すると
あなたは
わたしになり
わたしは
あなたになる



*愛媛県久万高原町・面河溪にて

好きか
嫌いか

好きが
嫌いになったり
嫌いが
好きになったりするように

ほんとは
おなじ感情の反復横跳び

好きからも
嫌いからも
自由になれたらいいな

わかるか
わからないか

わかるが
わからなくなったり
わからないが
わかったりするように

ほんとは
おなじ知識の反復横跳び

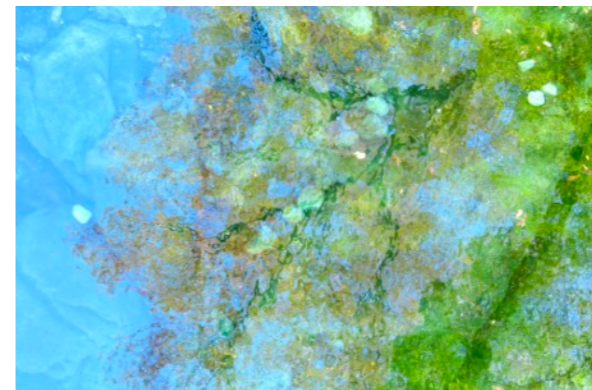
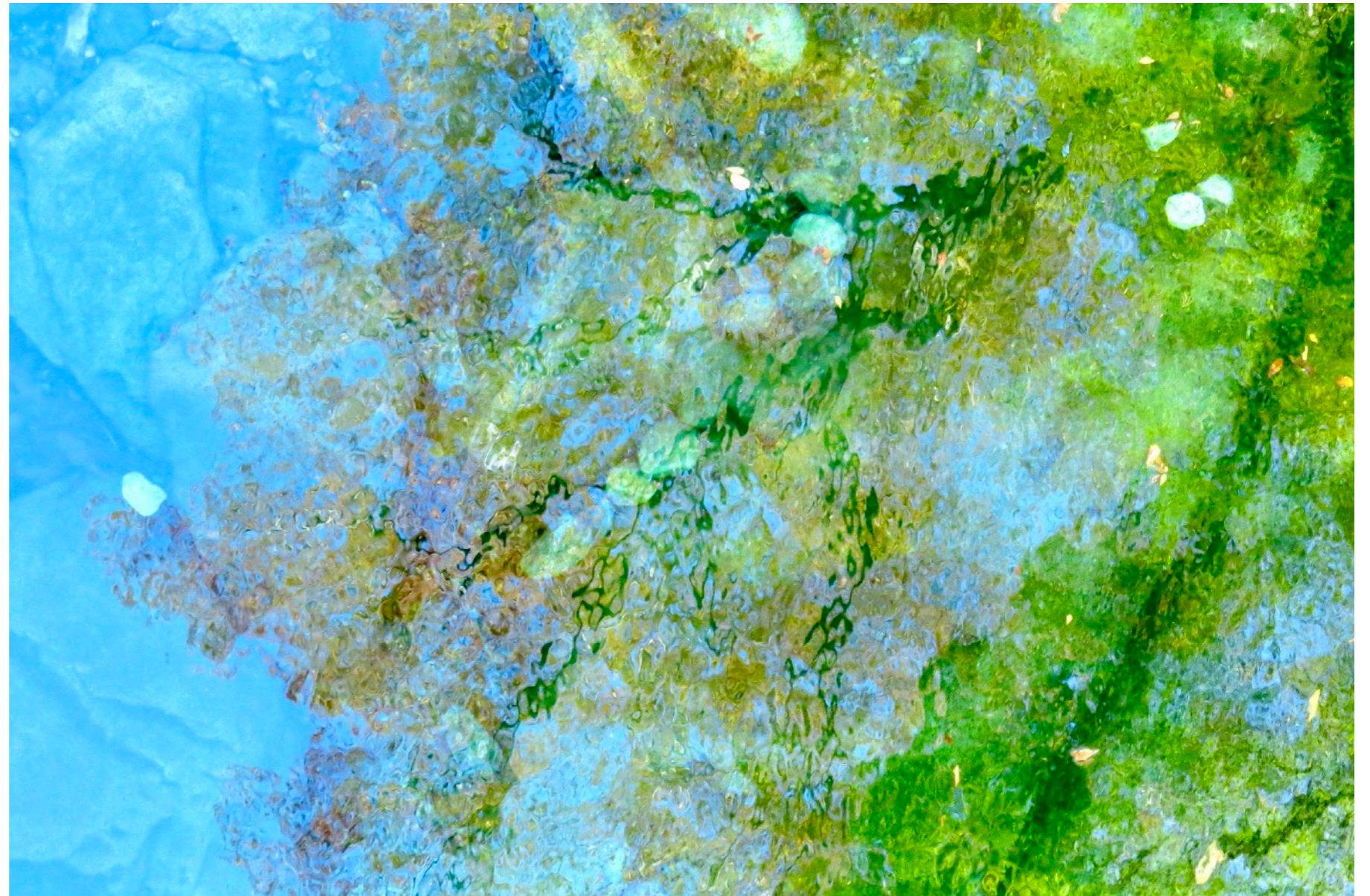
わかるからも
わからないからも
自由になれたらいいな

わたしか
みんなか

わたしが
みんなになったり
みんなが
わたしになったりするように

ほんとは
おなじ人称の反復横跳び

わたしからも
みんなからも
自由になれたらいいな



*愛媛県久万高原町・面河溪にて

口が
虚になると
嘘が生まれる

嘘を
言葉にできるのは
人間だけらしい

わたしは
かたらずにはいられない

けれど
かたるのは
わたしのなかにいる
もうひとりのわたし

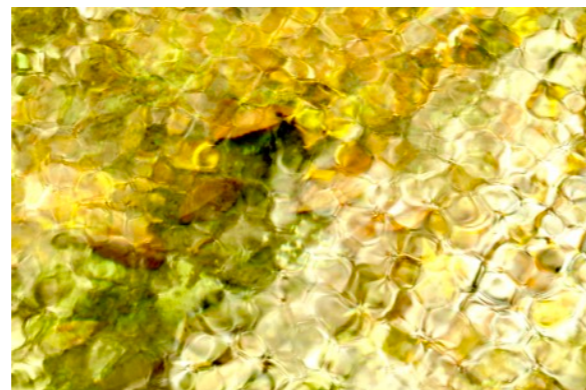
わたしの口から
嘘がでる

わたしのなかの虚が
かたってしまうのだ

虚に抗うか
それとも
虚に呑まれるか

わたしは
わたしのなかの虚を
たしかに見抜かねばならない

言葉を
嘘（うそ）へではなく
うたへと導くために



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしとはだれだろう

わたしは
演じたわたしのすべてなのか

それらの
わたしたちすべてが
わたしなのだろうか

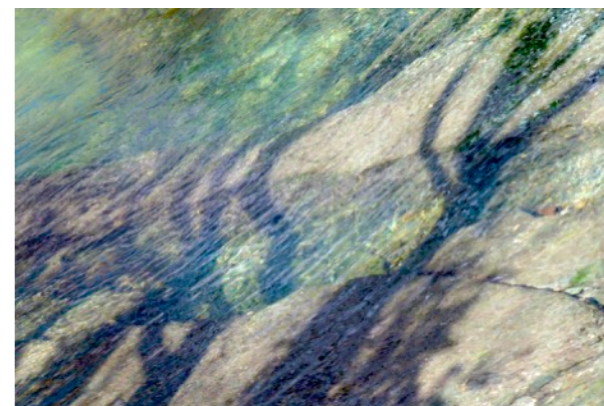
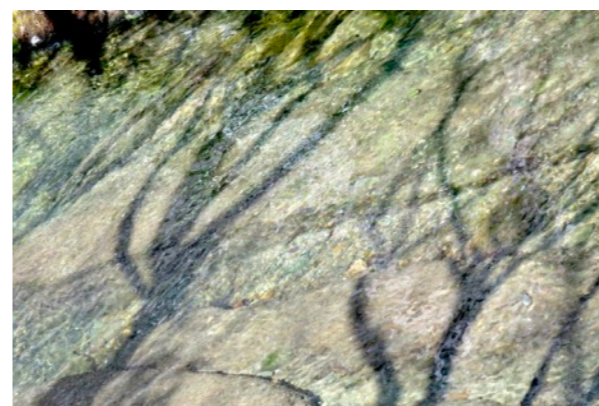
このわたしから解き放たれようと
ほかの世界で
ほかのわたしを演じたとしても

それも
このわたしでしかないから
わたしは
わたしから逃れられはしない

わたしは
わたしを忘れ
わたしを思い出し
またわたしを忘れ

そうして
何度もわたしを生き
わたしという存在をめぐり
その深みまで
たどっていかねばならない

わたしとはだれなのか
その問いをくり返しなが



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3462 2024.3.1

空を見ると
内なる空がひろがる

ひろがらないときは
どこかで
内なる光をなくしている

花を見ると
内なる花が咲く

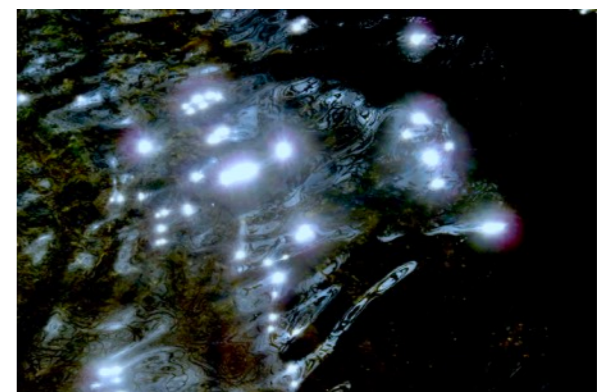
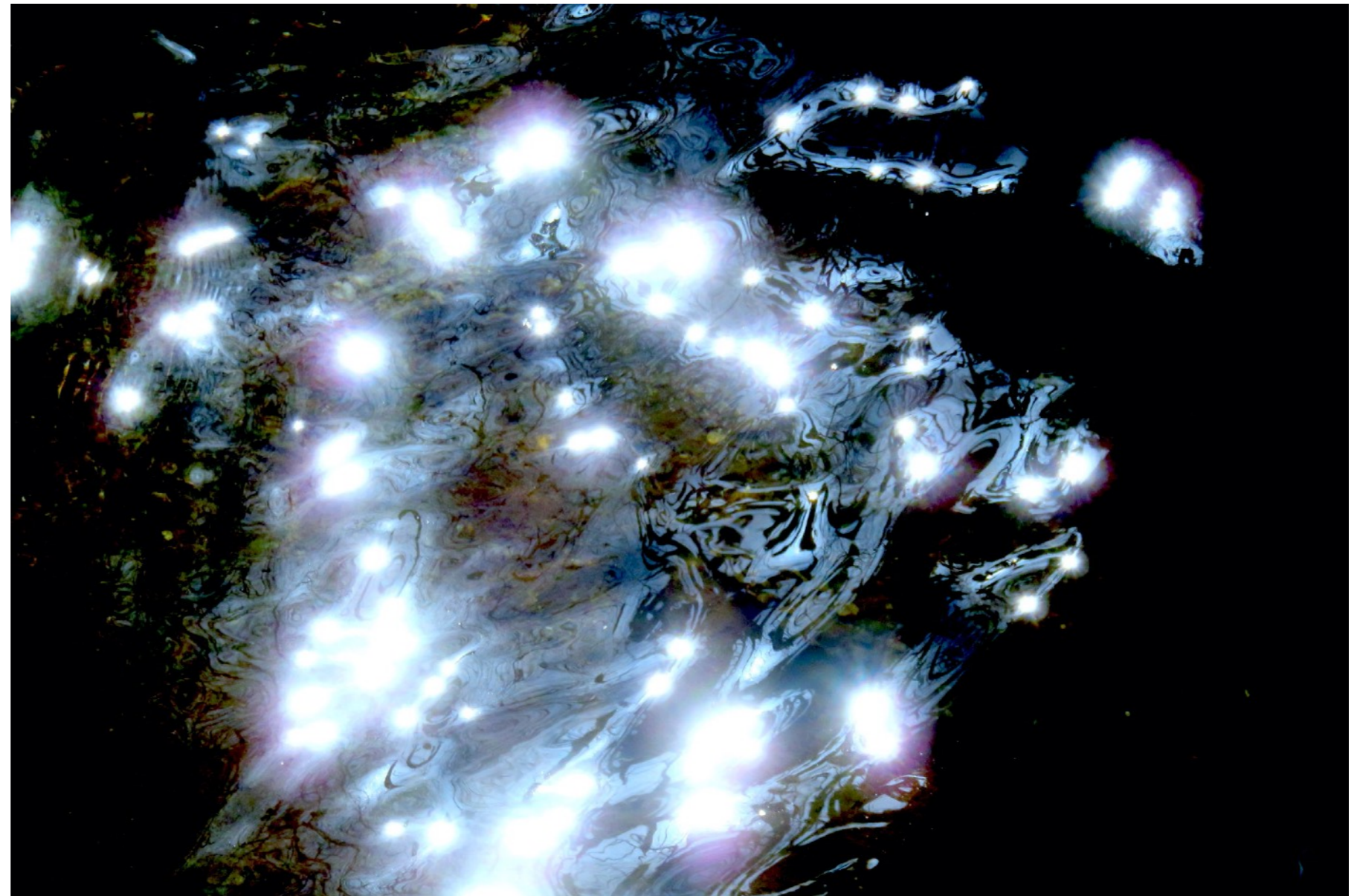
咲かないときは
どこかで
内なる光をなくしている

あなたを見つめると
内なるあなたが映る

映らないときは
どこかで
内なる光をなくしている

たいせつなものは
内なる光で照らさなければならない
たいせつなものは
与えられた光では見えないから

たいせつなものが
見えなくなったときは
内なる光をなくしている



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

なんのために
私は生きているのか

生きること
そのものに
意味がある

それは
たしかなことなのだが
それでも
ひとは問いつづけてやまない

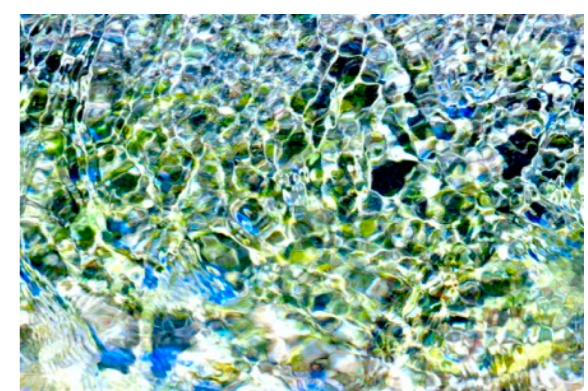
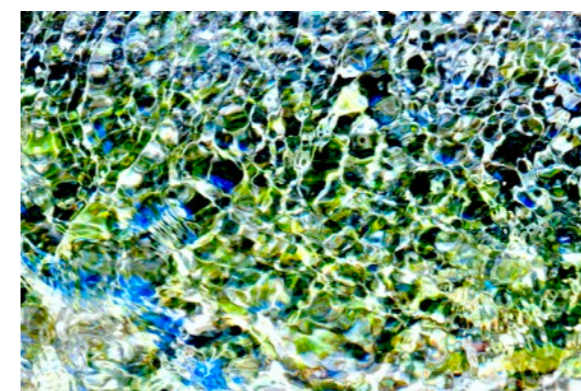
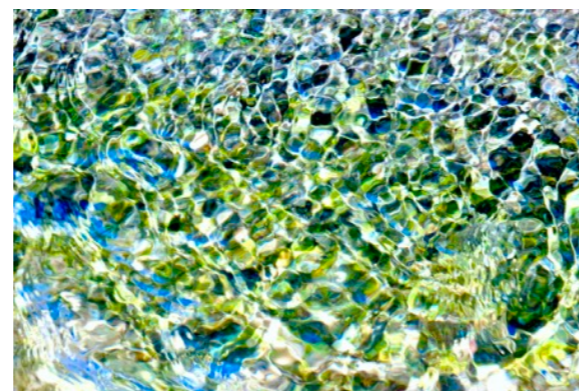
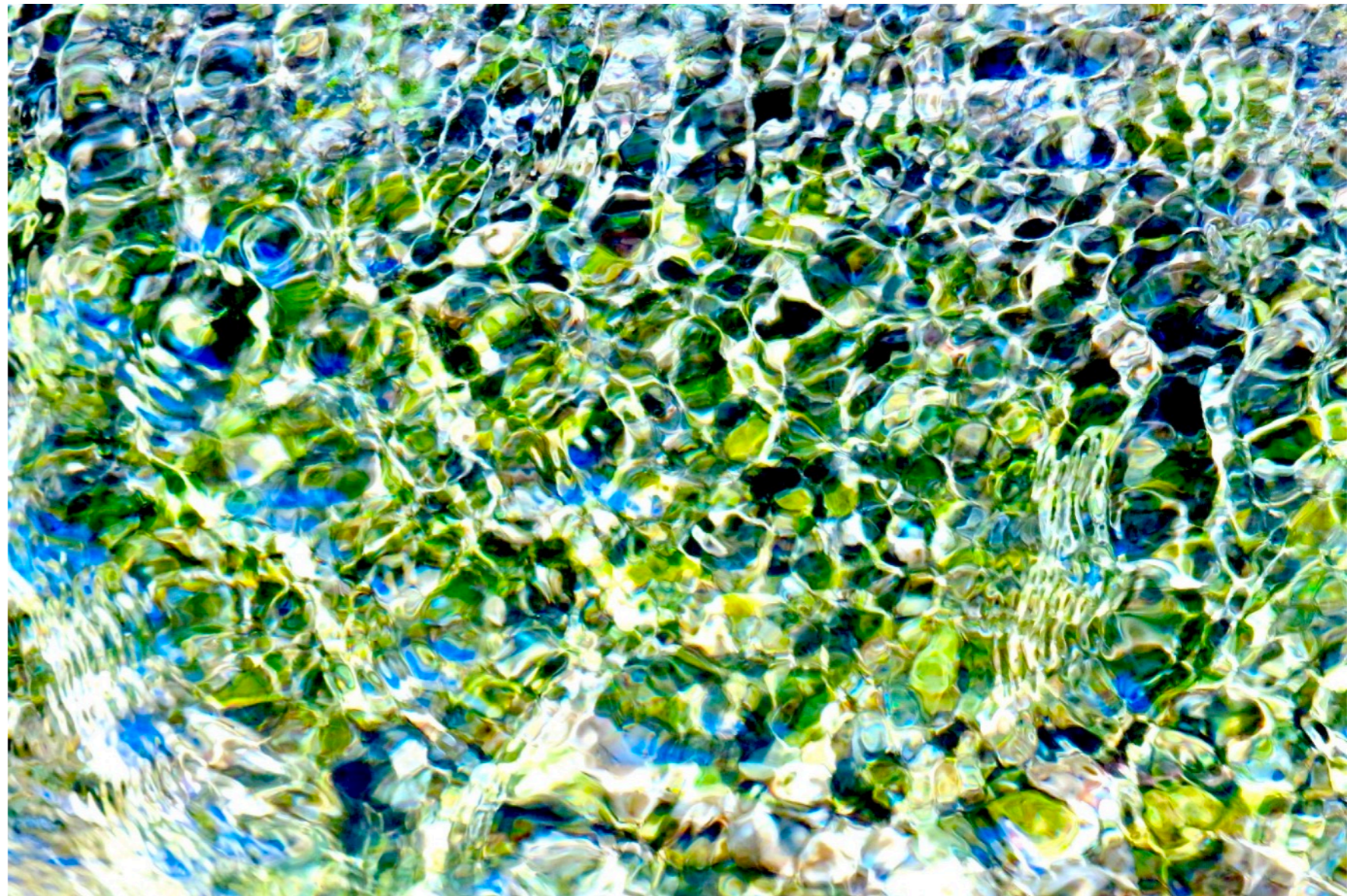
なんのために
私は生きているのか
なんのために
私は生きているのか

意味を見つけないのだ
意味がないことさえ見つけたいのだ

だれかにとっての意味ではなく
私だけにとっての意味を

そしてそれは
決して見つけることのできない
果てしない道行きとなるだろう

それを見つけようとする事そのものが
生まれ死に生まれ死ぬ
そんな果てしない遊戯ともなるのだから



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ことばには
かたちがあるけれど

かたちを得て
生きることばもあれば
かたちのなかで
いのちを失うことばもある

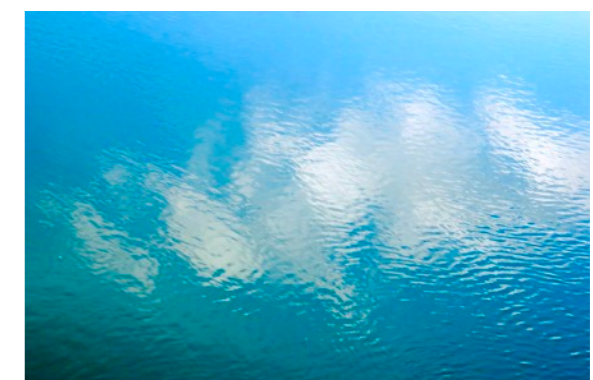
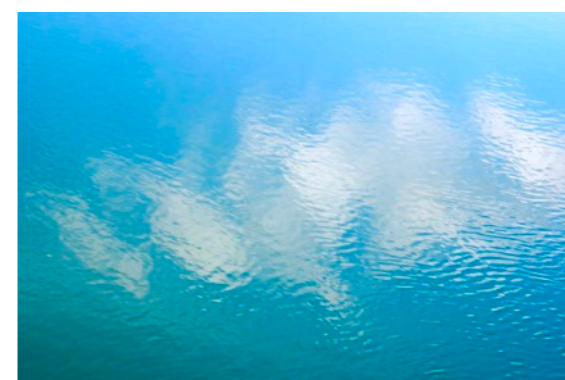
ことばは
うたから生まれたのに

うたを忘れたことばは
自由に踊ることもできないまま
籠のなかにいることさえ忘れてる

決められた
かたちのなかで
与えられた意味を
生きるだけ

ことばが
うたを思い出せば
かたちには
翼があることに気づくはず

そして
空へと向かい
うたこそがかたちを
作りだしていることを知るのだ



*愛媛県大洲市・肱川にて

知はひとを
迷路へと導く

好奇心あふれる
子どものように
未知は
開かれているのに

訳知りの
大人のように
既知は
閉じてしまうからだ

知のためには
知り続けながらも
既知をこそ恐れなければならない

知は常に
みずからへの
不意打ちを求めてやまない

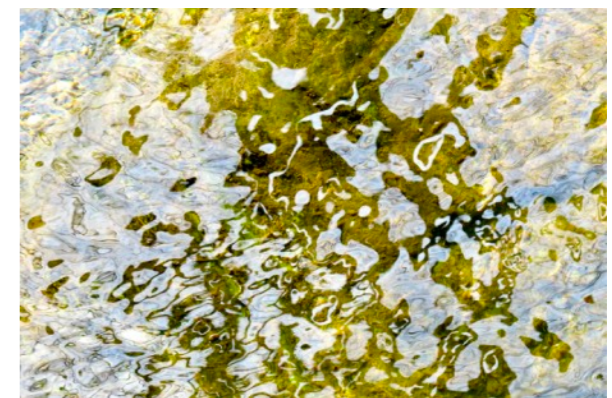
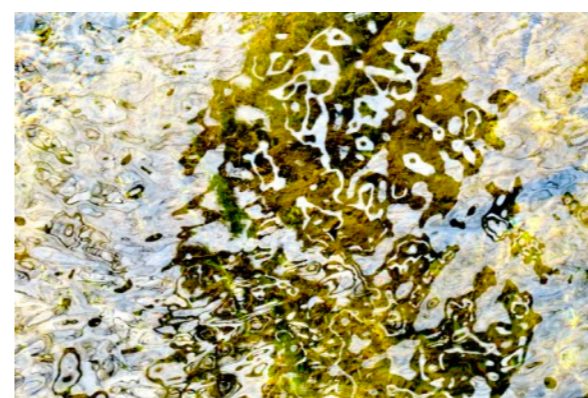
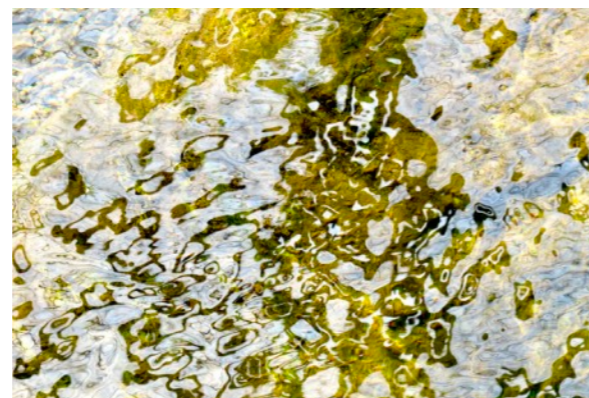
知らない！
それこそが
知への導きとなる

知を誇り
それを教えるばかりの者に
驚きが訪れることはない

驚きは
既知の外から
知を変容させる

知に限界が訪れるのは
驚けなくなったときだ

驚きはひとを
未知へと導く



影を見ているぼくと
影に見られているぼく

影には
からだがないけれど
光が
その姿を描いている

影を見ているぼくは
光だろうか
それとも影だろうか

ぼくを見ているぼくと
ぼくに見られているぼく

どちらが光で
どちらが影か

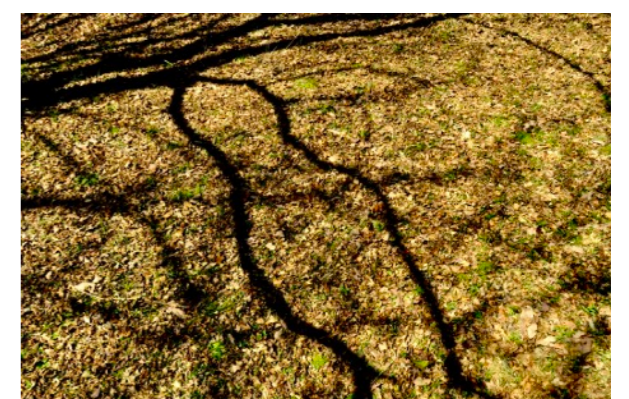
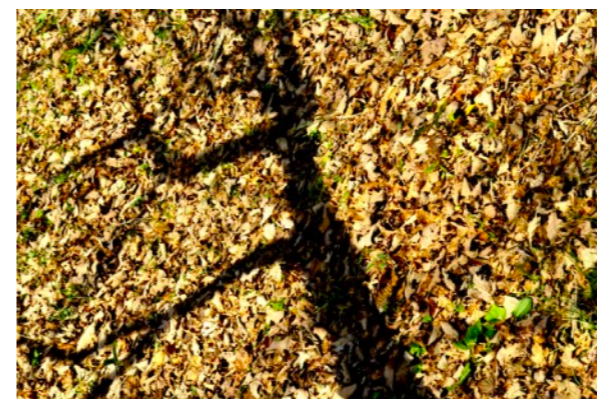
ことばを書くぼくと
ことばに書かれているぼく

どちらが光で
どちらが影か

プラトンは
洞窟の比喩を使うが
光と影と見えるものは
一方通行ではないようだ

ぼくという光
ぼくという影

それらが
遊び戯れながら
ぼくという現象は現れている



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

見る
ために
見えていないものに
気づく

そのとき
見ることが
ようやくはじまる

知る
ために
知らずにいることに
気づく

そのとき
知ることが
ようやくはじまる

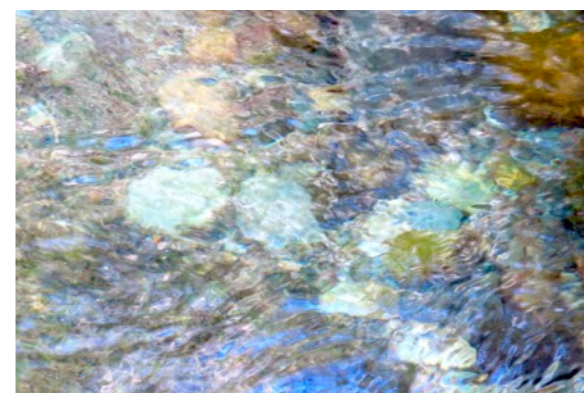
作る
ために
作れずにいることに
気づく

そのとき
作ることが
ようやくはじまる

歌う
ために
歌えずにいることに
気づく

そのとき
歌うことが
ようやくはじまる

いつも
はじまりとともにある
喜びを



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

光でも
闇でもない

白でも
黒でもない

快でも
苦でもない

静でも
動でもない

諾でも
否でもない

上でも
下でもない

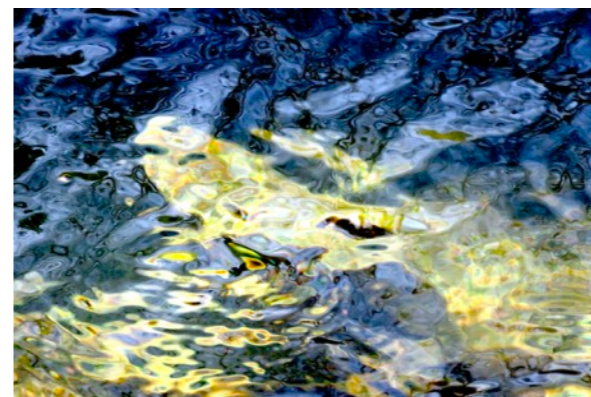
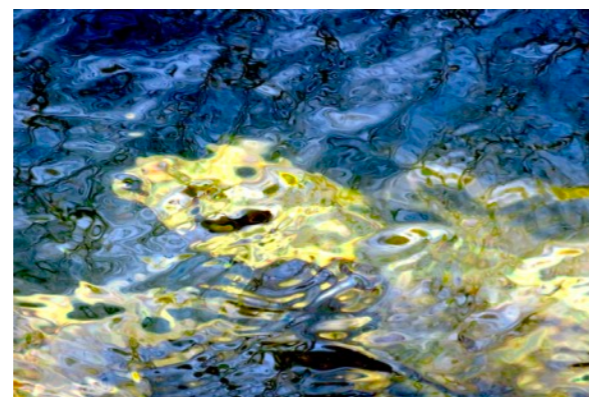
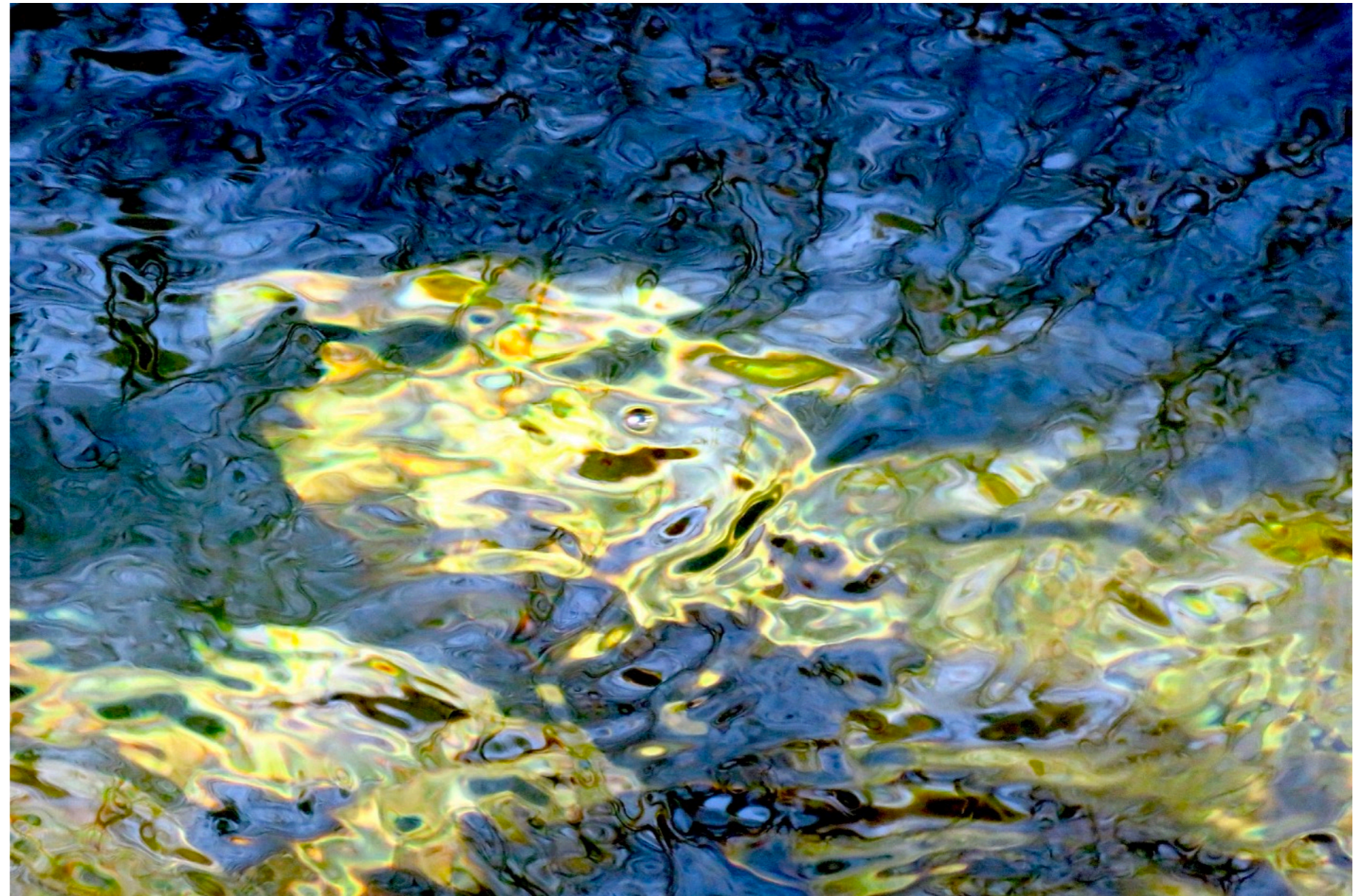
右でも
左でもない

始でも
終でもない

有でも
無でもない

その
あわいにて
その
深みにて

誰でもあり
誰でもない
我が
現象する
その謎を生きる！



声は
届いているだろうか

鎮魂のために
声は
赴かねばならない

世界の深みへ
その闘を超え

身体は
歌っているだろうか

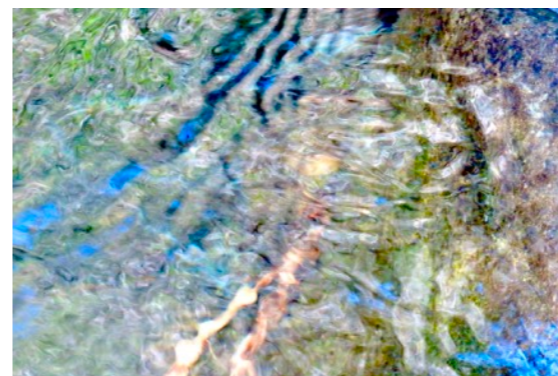
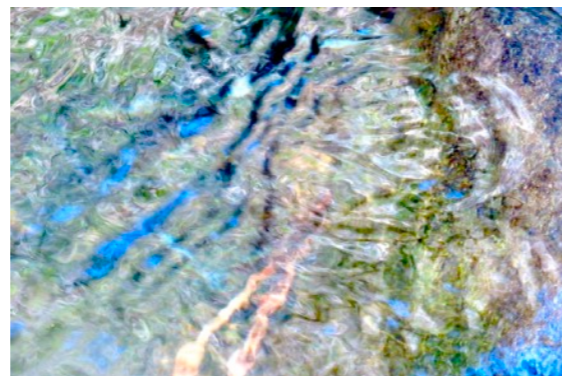
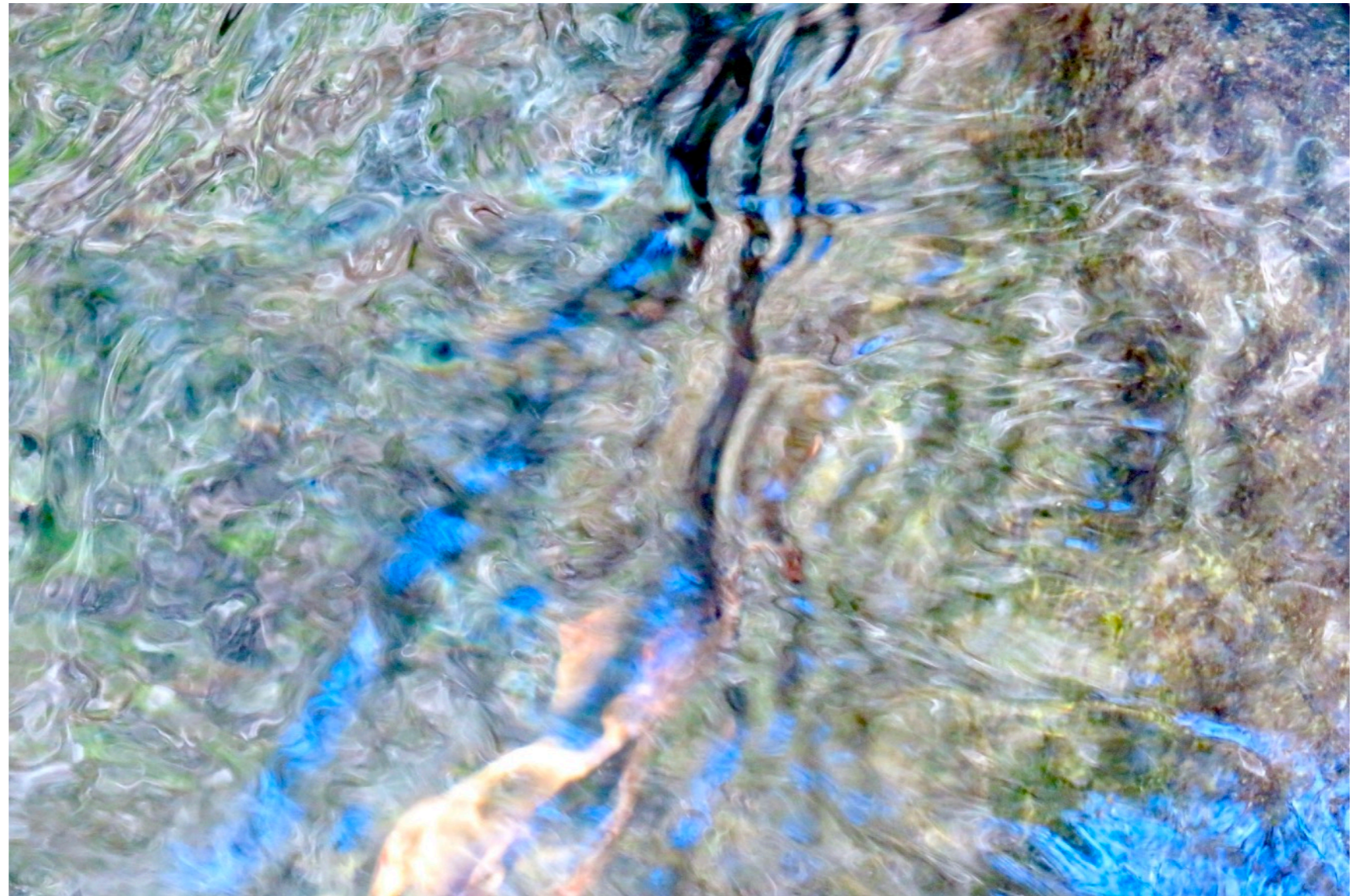
鎮魂のために
身体は
解かれねばならない

大地の深みで
その縛りから放たれ

心は
結ばれているだろうか

鎮魂のために
心は
開かれねばならない

霊の深みで
その秘密の鍵を見つけ



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

悪は
見えているか

内なる悪のことだ

外なる悪は見やすいが
内なる悪を見るためには
想像力が求められる

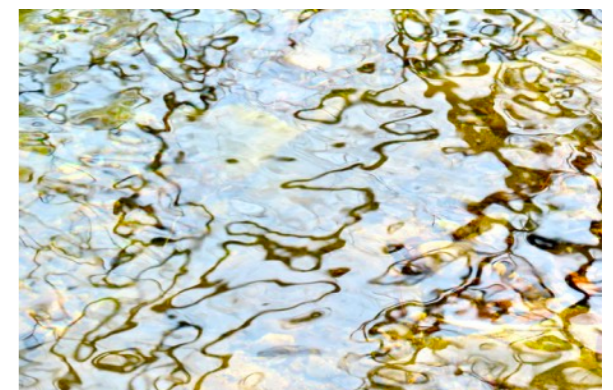
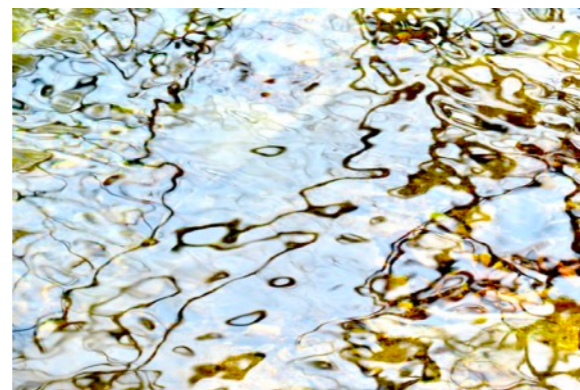
悪を生きんとして
想像力を
逆に働かせる者もいるだろうが
それらの者たちによる
力まかせの誘惑に惑わされてはならない

みずからの内なる悪への
想像力によってしか
ひらかれない扉がある

その扉は
外からは決してひらかれない

幾重にも閉じられた
魂の深みにある扉を
ひとつひとつ丹念に
ひらいていかなければならない

みずからの内に
悪が照らされたとき
それをどのように変容させるか
それがひとつひとつの鍵となる



こころを
しばる
ことばがある

ことばに囚われ
その外にでられなくなり
こころは閉じられてしまうから

そんなことばは
ひとつひとつ
手ばなしていけばいい

こころを
ひらく
ことばがある

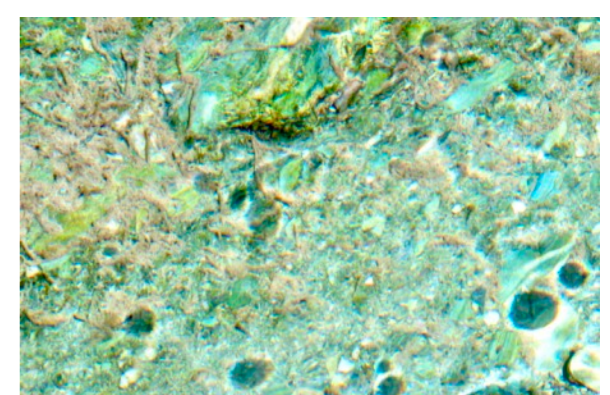
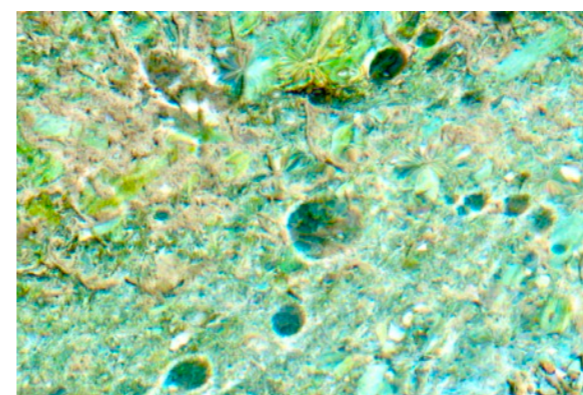
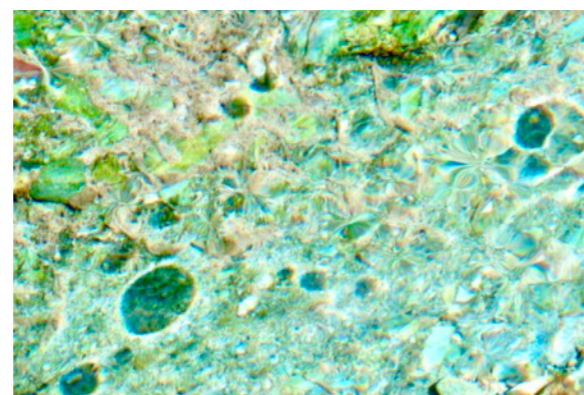
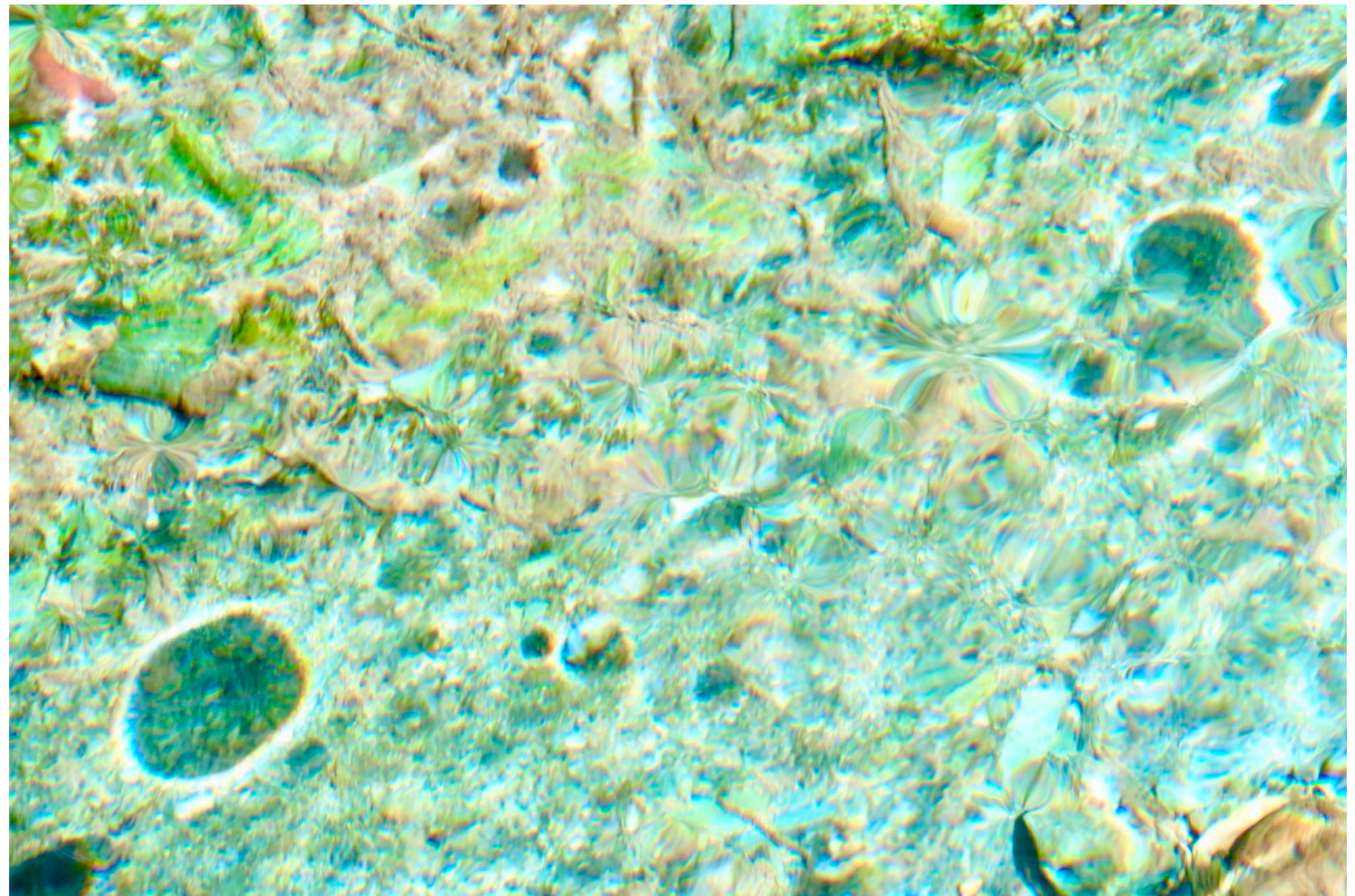
そんなことばは
たしかにこころをひらき
世界の扉がひらかれていくから

扉の外にでて
まだ見たことのない
景色を見ていけばいい

こころを
つくる
ことばがある

そんなことばは
こころをつくり
新たな世界を産み出すから

ことばとともに
教えられないことのない世界で
自由に生きていけばいい



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

花は
ただ花なのではない

花は
花となるために
ひらかれている

空は
ただ空なのではない

空は
空となるために
ひらかれている

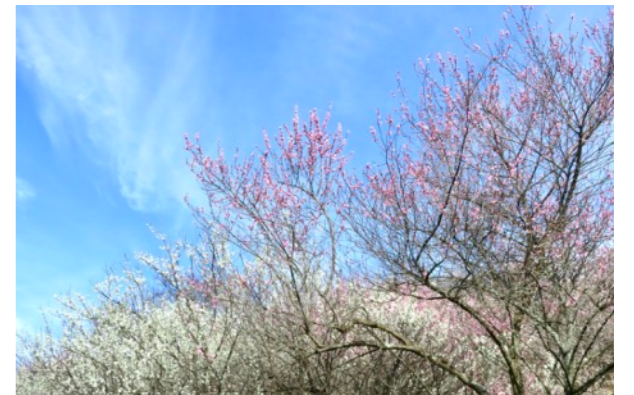
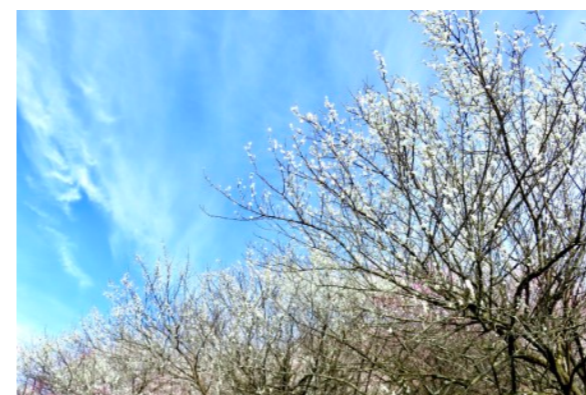
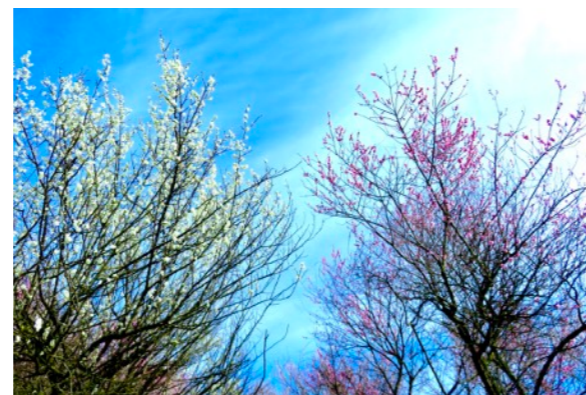
そして
私は
ただ私なのではない

私は
私となるために
ひらかれている

意味という
不思議のように

さまざまなものが
閉じることなく
照らしあうことで

はじめてそれは
それとしてあらわれる



どんなに
それを見つめても
それだけで
花の心を
知ることはならない

どんなに
その香をかいても
それだけで
花の心を
知ることはならない

どんなに
情を注いでも
それだけで
花の心を
知ることはならない

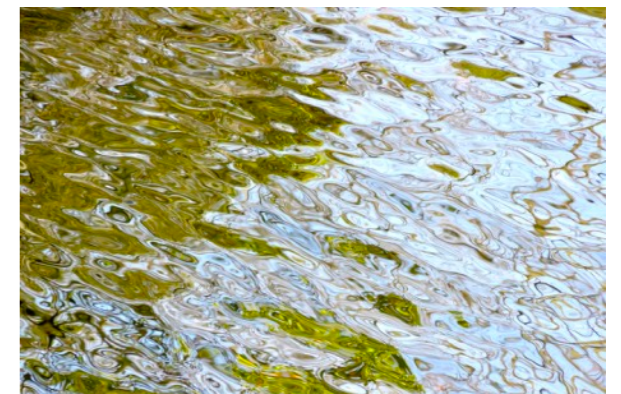
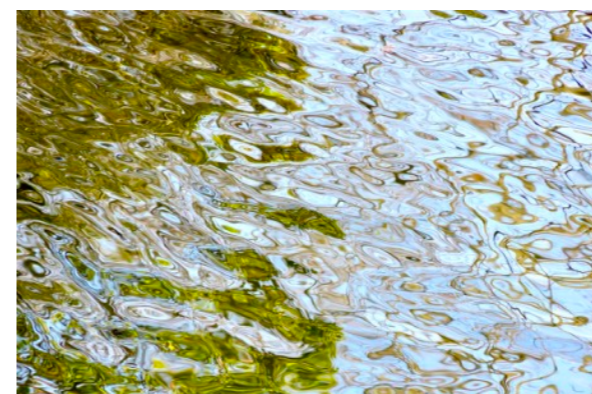
どんなに
知識を積み重ねても
それだけで
花の心を
知ることはならない

知る
とは
その心に
通じることだ

心とは
花を
花にしている
もののあはれ

わたしを
わたしにしている
もののあはれ

もののあはれを
知るとき
ものは
ほんとうの姿で
舞いはじめる



*愛媛県総合運動公園にて

わたし
が
見るとき

世界は
わたしの地平で
現象する

わたしは
地平を
超えられない

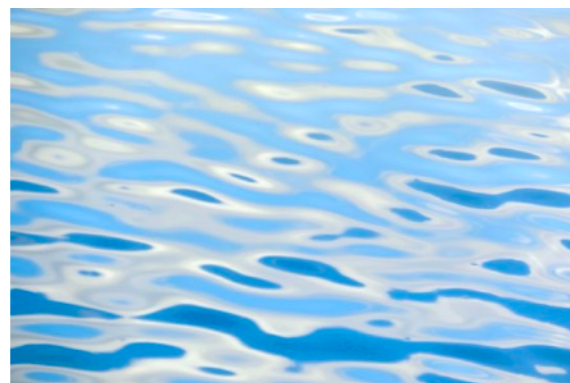
地平は
わたしが
つくるからだ

地平を
超えるためには
わたしを
超えねばならない

わたしを超える
ということは
地平を超えて
顕れるということだ

わたしがなくなるのではない
わたしを顕現させている者と
ともにあることだ

そこには
わたしがいて
わたしは
わたしを超えて顕れている



愛は奪う

じぶんのものにしたい
そこからはじまる愛がある

愛は与える

あなたにのためになにができるだろう
そこからはじまる愛がある

愛は変える

いままでのわたしではいけない
そこからはじまる愛がある

愛は生かす

あたらしいあなたを見つける
そこからはじまる愛がある

愛は許す

どんなことでも愛さえあれば
そこからはじまる愛がある

愛は何処に

愛すること
そのもののなかに

